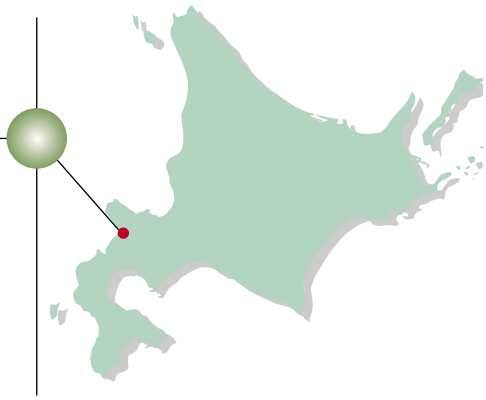
岩　内　町



岩内町
面　積：70.64 ㎢
人　口：17,895 人（H 7. 国調）
町の花、木：ななかまど（木）、はぎ（花）
町名の由来：「イワウナイ」～硫黄の流れる川
E-mail アドレス：iwanai @ seagreen.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www5.ocn.ne.jp/~hikk

岩内町企画経済部長
大嶋　正行

広域的な観点からの地域づくり

北海道の西部、積丹半島の付け根に位置する岩内町は、岩内港の背後を高度に集積した市街地が取り巻き、一般国道229号を抱くように中心商店街が形成されています。町の前面に日本海、背後にニセコ連峰を望み、ニシンの千石場所として栄えた歴史の中で独自の文化圏を構築してきた町です。

また、海や山など大自然からの豊かな恵みも岩内町の特徴の一つであり、日本海の絶壁に建つ雷電温泉郷や、積丹半島と市街地を眺望するいわない温泉郷、さらには山奥の秘湯として人気が高い朝日温泉と、個性の異なる3つの湯を楽しむことができます。

中でも、いわない温泉郷の一帯は「円山高原リゾートゾーン」へと変貌を遂げており、オートキャンプ場マリンビューやクイーンズランドいわない国際スキー場のほか、パークゴルフ場、森林公園、岩内岳登山道などアウトドアライフを満喫するレクリエーション施設の整備が進んでいます。

広域的な観点からの位置付け

一方、岩内町を広域的な観点から眺めますと、周辺町村を含めた岩内地域は、ニセコ圏と積丹半島圏という2大観光圏の結節点に位置しています。

また、今後の状況として北海道横断自動車道など高速交通アクセスの整備促進が見込まれ、札幌圏との時間距離が現在の2時間から大幅に短縮する見通しにあることから、条件的には都市住民の多様な余暇需要を吸収し得る大きな可能性を持っています。

このため、岩内町では、都市住民の週末観光をターゲットに「歴史・文化・自然」といった地域資源を生かした高品質な社会資本の整備を進め、これらを側面的に観光資源として活用していこうと計画しており、現在、その具体的な取組みとして「しりべしミュージアムロード構想」や「商業観光核整備構想」の展開を図っています。

しりべしミュージアムロード構想

後志地域は、もともと有島武郎や木田金次郎など多くの芸術家を輩出した文化の土壌があり、特に岩内町は、ニシン漁で得た莫大な富を背景に独自の文化を醸成し、芸術界においては「岩内派」と呼ばれる画風を構成するなど極めて美術好きな風土を培ってきました。

このため、後志地域にはそれらの作品を展示する文化観光施設が多数点在しますが、しりべしミュージアムロード構想は、魅力的な広域観光ロードの形成を目的に、こうした文化観光施設のネットワーク化を共同事業として進めるものであり、平成7年に岩内町の岩城成治町長が提唱しました。

現在は、岩内町の木田金次郎美術館と荒井記念美術館、ニセコ町の有島記念館、共和町の西村計雄記念美術館など6町村7館が共同事業に参加しており、施設PRの相乗効果を狙った取組みを行っています。こうした文化観光施設のネットワーク化は全国的にみてもあまり例がなく、マスコミにも取り上げられるなど道内外に大きな反響がありました。

取組みの内容としては、紹介ビデオやポスター・リーフレット・共通ロゴマークの作成、観光ツアーの誘致、各種メディアを活用した広報の実施のほか、共通チケットの販売や各施設持回り展覧会なども検討しています。

将来的には、各施設を結ぶ国道や道道等における「ミュージアムロードの名にふさわしい景観」の整備や、大手旅行雑誌の臨時増刊号発行などを視野に入れながら取組みを進めたいと思っています。

商業観光核整備構想

また、商業観光核整備構想についてですが、この構想は、従来の観光振興が大規模なリゾート開発を志向しがちであったという反省を踏まえ、地域資源を生かした「岩内らしさ」を全面に押し出すことで、「町の顔」である中心市街地において高品質な整備を進め、商業と観光の活性化を図っていこうと

するものです。

具体的には、岩内という町の港町らしさが最も演出できる「漁港区および隣接する中心市街地」において、漁業との協調を図りながら、岩内町の原風景である「港まち空間」の一体的な景観整備を進めます。また、商店街に隣接する「歴史的な遺産である神社仏閣が集積した地区」においては、まさしく岩内町がこれまで培ってきた歴史と文化の集積地区であることから、「歴史文化空間」として景観整備を進めたいと考えています。

こうした景観整備に当たっては、まず、今後の景観形成が計画的・統一的に実施されることが第一であり、特に整備方針の決定に際しては住民意向の反映が重要と考えています。

このため、ハード整備の基本となるビジョンを平成13年度に策定しますが、ビジョン内容の検討は商業や観光、福祉の関係者及び住民で構成する検討委員会が行う予定となっています。

ビジョンの組立てとしては、

㈰中心市街地における「景観形成の基本方針」

㈪広域的観点から観光車輌を適切に誘導する「広域的な観光客誘導の指針」

㈫歩行者の動線を決定する「観光サイン等の整備指針」

以上の3つが柱になるのではないかと思っています。

ビジョン策定後は、絵に描いた餅にならないように、ビジョンに基づき中心市街地の再整備を着実に進めながら、広域的な観光誘導に努めていきますが、民間サイドにも、構想の趣旨を十分にご理解いただく中で、景観づくりの当事者として積極的な参加を期待しています。

岩内湾深層水事業の推進

他方、岩内町で今、最も情熱を注いで取り組んでいる事業があります。「岩内湾深層水事業」です。

深層水事業は高知県や沖縄県での取組みが話題となっていますが、ご存じない方のために紹介しますと、海洋深層水は、一般的には光合成に必要な太陽光線が届かない水深200m以深の海水をいい、特性としては、㈰低温安定性、㈪富栄養性、㈫清浄性、㈬ミネラル特性などが知られています。

岩内湾でも海洋深層水の存在がすでに確認されており、その特徴は、水温が極めて低温（約1℃）であること、栄養塩類が非常に豊富なこと、他に例がないほど清浄であることなどが挙げられます。

こうした岩内湾深層水の特徴を生かすには、地域全体で広域的に利活用していくことが効果的であり、漁業や水産加工業のみならず、他の食品加工業や農業など様々な産業分野に応用が可能ではないかと期待しています。

例えば、水中荷捌施設･陸上蓄養施設での魚介類の蓄養殖、研究施設等での種苗生産、消費地への活魚輸送のほか、深層水氷の製造や市場施設洗浄等による地域ハサップ体制の確立など、水産分野での幅広い利活用が見込まれます。

さらに、その他の多目的な利用として、食料品や飲料水、塩、にがり等の商品開発とともに、農業や医療分野での活用もあり、地場企業はもとより地域内への企業誘致や地域外での利用も想定されます。

したがって、まずは岩内湾深層水を汲み上げることが最重要課題となるわけですが、ハード整備については、取水管の敷設に関する調査結果などを踏まえ、現在は取水や分水、蓄養殖など施設全体の整備計画を立案検討中であり、平成15年度の供用開始を目標とした作業を進めています。

以上、広域的な観点からの地域づくりについて、岩内町の取組みを3例ご紹介しましたが、ここで注目すべき点は、こうした地域発の広域的な取組みを足もとで支える「交通アクセス」の重要性です。

交通アクセスの充実は、住民生活の利便性向上や広域観光の振興、物流の効率化には不可欠であり、新たな道路の整備はもとより、現道の万全な防災対策によって地域の足がしっかり確保されることが必要と考えます。

道づくりは地域づくりに通じるといいます。国と地域が共にパートナーとなり、協力し合って国づくり・地域づくりを進めることが大切だと痛感します。

岩内湾深層水の簡易取水作業